

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年10月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600735
事業所名 (ユニット名)	グループホーム多賀の里 参丁目
記入者(管理者) 氏名	黒川友誉(目見田恵子)
自己評価作成日	令和元 年 8 月 30 日

<p>【事業所理念】</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 若い職員や男性職員配置の多い職員構成のため、明るく活気に溢れている印象である。ユニットごとに目標を掲げており、生きがいを見つける、心安らぐ生活といったユニットの利用者に合わせた支援の方向性がキーワードとなっている事業所地域は地域ぐるみの地域防災に長け、事業所で行う認知症ケアにも理解があり、受け入れられている様子が窺えた。事業所としても地域に支えていただいていると感謝の念を持ちながら、利用者の毎日を支えている。</p>
----------------	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の生活の中で、利用者様がどのように過ごしていきたいかを聴いたり行動から理解するように努めている。	◎	/	◎	入居前に面接で暮らし方の希望や意向を伺い、入居後の日々の支援の中でも利用者との会話に耳を傾け情報を収集している。収集した情報はアセスメントシートにまとめ、職員間で共有している。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	しぐさや行動などから理解するように努めている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時や電話の時に聴くようにしている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	出来る範囲で、本人、家族等に聴取してフェースシートを作成している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者の声に耳を傾けている。また行動からの十分に想いを理解するように努めている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	フェースシート等を作成する際に、本人家族や携わった機関からの聴取するようにしている。	/	/	◎	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方などについて、利用者や家族、利用してきたサービス事業所から情報収集している。日々の生活の中でも少しずつ関係が深まっていくと自然に情報が増えている。アセスメントシートを更新させながら職員間で共有している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントシートに記録するようにしている。	/	/	/			
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々のかかわりや生活の様子を生活記録に記録している。	/	/	/			
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	記録を職員間で共有し、都度検討している。	/	/	/			
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24時間シートを定期的に作成、更新している。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点に立って考えるように職員同士で検討実践している。	/	/	◎	課題を分析する際には可能な限り利用者や家族に参加してもらうことで、利用者視点に近づけるように努め、ケース会で職員の意見を出し合って検討している。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ケース会だけでなく、生活の色々な場面で都度職員間で話し合っている。	/	/	/			
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討からの実践を振り返りながら、都度検討している。	/	/	/			

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアプランが本人の状態に沿っているかを定期的に検討している。	/	/	/	ケース会では担当職員が中心となって課題やケアのあり方について話し合っている。利用者や家族からの意見を踏まえ、介護支援専門員や計画作成担当者が介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々のケア内容や生活の様子を報告し、意見を求めている。その都度対応策などを話し、またそれを報告している。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	全てを満たすケアは難しいができる範囲でその環境作りを支援している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	施設内だけで、完結しないように買い物や外出など社会資源も盛り込むようなプラン作りを行っている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケース会だけでなく、生活の色々な場面で都度職員間で話し合っている。	/	/	◎	ケース会で介護計画の内容を理解し、日々の生活の中でも理解が深まるように話し合いを行っている。介護計画にそったケアの実施状況は生活介護記録に詳細に記録し、来訪時の家族にも確認してもらっている。利用者の暮らしの様子や支援した具体的内容も生活介護記録に記録し、職員の気づきや工夫などは気づきノートに記入している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングだけでなく、都度検討し、対応策を考えている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	生活記録になるべく記録するようにしている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	生活記録になるべく記録し、また気づきノートをつけて職員間で共有している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的な見直しだけでなく、状況が変わった時などは迅速に対応している。	/	/	◎	3か月ごとに見直しを行い、毎月のケース会で現状確認を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合には、利用者や家族と意見を出しながら随時介護計画を見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングだけでなく、都度検討し、対応策を考えている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	転倒や退院後などが大きく変化がみられる事が多いが、都度対応している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	気づきを大切にして、職員間で対応をとっている。	/	/	◎	ケース会を主な課題解決の場としているが、緊急案件だけでなく疑問点がある場合には当日の勤務者で話し合っている。参加できない職員にはあらかじめ意見を先に聞いておき、全員の意見を出し合うように工夫し、話し合った内容は会議録で確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	誰でも自由に意見が言い合えるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	原則、全員参加している。参加できない職員へは事前に意見を聴取している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	参加できない職員へは事前に意見を聴取しておき、検討内容の結果は会議録で報告している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや気づきノートを作成し、スタッフが署名することで共有を図っている。	/	/	◎	家族とのやりとりを含め、口頭での申し送りを行っている。申し送りノートや気づきノート、会議録を確認することで重要な情報を全職員に伝達し、サインをして確認している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	生活記録、申し送りノートや気づきノートを作成し、職員間で共有している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者とかかわりの中から、その日の状態を判断して都度、レクリエーションを提供するようにしている。				画一的な支援ではなく、個別や少人数で散歩を行ったり、洗濯物干しなどの家事を一緒にしたりと、暮らしの様々な場面で楽しめるように複数の選択肢の中から自由に選べるように機会を増やしている。個別や少人数での関わりの中で、じっくり話をすることで、本音が引き出せることも多く、自発的な発言が聞かれている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	画一的な声かけではなく、選択肢を増やしてレクや家事支援などを選べる機会を設けている。			◎		
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	筆談を使用したりするなど、状態に応じて意思決定を支援している。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	服薬の関係上、なるべく食事は時間を合わせるようにしているが、それ以外の行為については、なるべく自己決定を支援している。					
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔で接することや、尊敬を持った接し方をすることで利用者に不快感を与えずに率直な感情表出を促すように努力している。					◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	しぐさや表情などなから感じ取るように努めている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	言葉かけや態度について、定期的に職員間で話し合う機会をもち、チェックしていく体制が出来ている。		◎	○	◎	◎ 利用者の人権や尊厳について話し合いの機会を持ち、尊敬の念を持って対応するよう心がけている。言葉は丁寧すぎず、ごく自然であり、声の大きさに気をつけながら優しい対応を行っている。利用者の居室ドアの開閉については事前に希望を確認して対応しているため、当日のが気温や天気によって開放されていることも多い。評価調査時の見学では、ノックや声かけ、説明を行って入室する様子が確認できた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	トイレ誘導時は、他の利用者に配慮した声かけをしている。					
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時はトイレの外で職員が待機し、声かけを行っている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	掃除などで部屋に入る時は、利用者へ一言声をかけ出入りしている。				◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に誓約書を書いている(職員)毎年勉強会を行い理解している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事などの手伝いをしていただいた時に、ありがとうの感謝の言葉と気持ちを示している。				◎ 利用者同士の相性や、親しさに応じて配席誘導を行い、仲の良い利用者がソファ席でおしゃべりを楽しむ様子が窺えた。大声をあげてしまう利用者もいるが、さり気なく職員が間に入ってトラブルを未然に回避していた。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	助け合いながら生活することで、連帯感が生まれ雰囲気の良いユニットになっている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が間に入ることでトラブルを回避し協力して行えるようなレクリエーションを提供している。					◎
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになった原因を探り、再発防止に努める。利用者が不安にならないように傾聴受容している。					

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	フェイスシートや本人、家族様から情報を得て職員間で共有している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族からの話で把握に努めているが、十分ではない。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	知人、友人に会いに行く事はあまりないが、外出などで馴染みの場所に職員と行くことはある。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	感染症が流行っている時期以外は、面会に制限は設けていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	毎日、全ての利用者が外出するのは難しいが散歩や日光浴、ドライブの機会を定期的に設けている。	○	△	○	「コスモスが咲いたから見に行こう」など、ユニットごとに少人数で対応し、日常的に散歩に出かけている。車いすの利用者も1日中事業所内で過ごすことがないよう配慮し、散歩や日光浴を行っているが、季節や体調に応じてもっと機会を意識的に増やしていきたいと考えている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の高校のバラ園などに招待されて見に行くことがある。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度、軽度にかかわらず、外出の機会を設けている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	できるだけ本人の希望を取り入れながら外出場所を選定している。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ケース会でBPSDの理解と対応を検討している。一人ひとりの症状を理解してかわり方を変えている。				車いすの利用者が職員と目的を確認しながら自走している様子が確認できた。アセスメントにより、できることはなるべく利用者自身にしてもらう姿勢で支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	歩行訓練や食事前の口腔体操を毎日行い、歌を唄いながら体を動かすなど、楽しさを感じてもらいながら機能訓練をしている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できない事の支援を行い、出来ることについては残存機能を生かすなどの適切な支援を心掛けている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントシートを見て、本人の思いなどを踏まえて役割を提供している。				水やりや洗濯物干しをすることを役割としている利用者もいる。全体的に利用者は高齢化しており、集団での活動や作品作りは難しくなっていると感じているため、家事作業や利用者のできそうな作業を共にしながら楽しみを見つけるように支援している
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	できる事を見極め、家事の提供やレクでの出番作りを支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の方と一緒に行う行事へ参加していただくことで、生活のハリや楽しさを感じていただいている。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	職員は利用者が良いと思う身だしなみについては出来るだけ尊重する。	/	/	/	どの利用者も季節に応じて身だしなみを整えており、プライドに配慮した支援に努めている。散歩に出かける利用者が座って靴を履き替えている際に、介助しながらそっと下着や靴下を整えている様子が窺え、さりげない配慮が感じられた。重度の利用者も家族の協力を得ながらこれまで好んできた髪型や服装に整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の希望を聞いたり、家族にも協力してもらい好みのものを提供している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者に声かけしながら、本人の気持ちを汲む努力をし、一緒に考えている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時は、普段の服装よりも華美なものを着るようにしている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく本人へ伝え、利用者のプライドを傷つけないようにしている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	希望があれば、家族の方が散髪へ連れて行ってきている。他の利用者は施設に業者が来ている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度の利用者でも身だしなみに気をつけ、本人が今までしてきた髪型や服装を心掛けている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者とは協働しながら準備、献立を作るなどを行っている。	/	/	/	利用者は献立の希望を出し、下ごしらえや片付けを職員と共にしている。嗜好やアレルギーについて入居時に把握し、病状にも配慮しながら提供している。芋炊きなどの地域で慣れ親しんだ献立に、にこやかな反応が見られた。コップや茶碗は個人のものを使用し、他の食器類は使いやすく、軽量のものを用意している。職員も同じ食卓と一緒に食事をしながら食事の介助を行っている。重度の利用者も皆でリビングに集って食事を楽しみに待っている様子が見られた。使用する食材が偏らないように、調理方法、提供する形態の工夫などの話し合いを行っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物と一緒に行く事は難しいときもあるが、下準備や後片付けなどは一緒に行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	簡単や下準備、調理、後片付けをすることで、力を発揮され、達成感に繋げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	禁忌な食材についてはメモし、スタッフ間で共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	献立作りの際に、季節のものや利用者が好きだったものなどを聴取している。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供している。盛り付けや彩りにも注意している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	コップや茶わんなどは1人ひとり個別の食器を提供している	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	同じテーブルで食事をして、見守りや話をしながら行っている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	現在は、おられない。	○	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	お茶だけではなく、時には本人の好きな飲みものを提供して1日の必要水分量を確保するようにしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事形態を変えたり、好みのものを提供したりしている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士からの指導は受けていないが、偏らないような配慮は行っている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	生モノの提供はなるべく避けている。洗浄後の食器は乾燥機で乾かしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解しており、拒否の方には対応を変えたりしている。	/	/	/	アセスメントで全利用者の口腔内の健康状況やケア方法について把握している。毎食後、歯磨きを実施し、できることをやってもらいながら口腔の清潔を支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯の状態や残歯などの情報を共有している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	言語聴覚士から口腔体操等の指導を受けている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	週2回は消毒を行い、清潔に保てるようにしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	1人ひとりできる範囲で口腔ケアをしてもらい、出来ない方には介助している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	利用者からの訴え、義歯の不具合等があれば、歯科受診し調整を図っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の失敗を恥ずかしいと感じているなどの情報をスタッフ間で共有し、対応を考えて自信回復に繋げていき、尊厳を守るように努めている。	/	/	/	排泄パターンを把握し、個別に声をかけてトイレ誘導を行い、日中はトイレでの自然排泄を基本に支援している。状態に合った適切な排泄用品の使用を検討し、家族の意見も取り入れながら布パッドを使用してみるといった工夫を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄の状況や状態について学び、体調に合わせて支援するように情報共有している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	1日の排泄をチェックしている。個々の体調を確認しトイレの声かけを行っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	1日の水分量やトイレ回数など個々に合わせて支援の仕方を考えている。	/	◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	体調、状態を把握し、可能な限り、トイレ誘導声かけを行い意思を尊重している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個人のパターンにもよるが、2～3時間空けば声かけし、食事就寝前にも促している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	特に夜間帯は、体調不良や睡眠を優先したり、声かけに気づくことなく熟睡していることもあるため、状況報告を行い支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中は布パンツ+尿パット、夜間は紙パンツ+尿パットなど個人の状況で使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	1日1回以上は全身を使った運動を行っている。自然排便を促すため、水分摂取の声かけや個別ケアに取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	体調に合わせて、本人と相談したり、熱めのお湯が好きな方には調整するなど、なるべく希望に添えるようにしている。	/	◎	/	1階ユニットの浴室にはリフトが設置しており、必要に応じて全ユニットの利用者が使用できる、毎日の入浴も可能であり、利用者の希望や体調を考慮しながら対応している。湯温度や順番なども配慮して、気持ち良く入浴できるように支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	出来ている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることは自分で行ってもらうように支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	気分よく入浴できるように声かけを前もって行ったり、時間を空けて2度3度声かけを行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行うだけでなく、本人にも確認している。長風呂の方には、細目に水分補強を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握している。日々違うため情報共有している。	/	/	/	夜眠れるように日中を活動的に過ごし、薬に頼らない支援を心がけている。眠れない利用者には、無理強いすることなくリラックスできるように寄り添っている。薬の使用については主治医に相談し、状態に見合った処方を受けている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方を見直したり、レクや家事への参加を促したりして、生活のリズムをつけてもらうよう支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中活動で個別ケアを行い、個人に合った支援をしている。また、日中の様子を家族や主治医に報告し薬を処方を受けている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ウトウトされている方には声かけを行い、ソファや和室、自室で休んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人より希望があれば、手紙を書いたり電話ができるように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	レクリエーションの一環として、便箋を書いたり、書初めをしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば、電話できるように支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙はご本人に渡して読んでもらい、会話の中で感想を聞いている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人の状況を連絡し、家族に対応してもらっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	個々に現金を所有していないが、購入希望や支払いについて問われると、意味大切さを理解し支援している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	食材買い出し時などに聞いたり、個人的に希望されている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	スタッフと一緒に参加したり、事前に訪問することで理解を求めている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	行事計画を立て、買い物支援を加えて本人で選ぶ楽しさを感じてもらおうようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合いで、本人や家族の意向を確認している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	個々に管理している人はいない。以前は出納長を使って管理していた。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ドライブや買い物など、いつもと違った気分を味わってもらったり、コーラスボランティアの歌を聴くなど利用者の豊かな暮らしを支援している。	◎	/	◎	家族からの依頼で、受診同行に応じることが多い。利用者や家族のその時々々のニーズには、柔軟な姿勢をもって応じるように努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	地域の方に運営推進会議などで報告したり、催しに参加したりしている。	◎	◎	◎	門扉や玄関ドアは開放されており、利用者が出迎えてくれ、気軽な雰囲気を感じられた。広い玄関ホールにはテーブルやいすの設置があり、事業所や地域情報を閲覧することができる。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。)	○	壁には誕生日色紙や棚の上には家族との写真や思い出の品を置いている。	◎	○	◎	共用空間は、ソファ席やテーブル席、畳のコーナーと、その時の目的や気分に応じた使い方ができ、家庭的な家具や和調の調度品で居心地の良い空間を演出している。職員紹介やユニットの目標を掲示し、利用者や家族と共有している。自然光をたっぷり取り入れて明るく、毎日の清掃が行き届いた清潔な空間である。季節の花々を飾り、利用者の目線に合わせた位置に行事写真を掲示して、利用者の反応を引き出すことができている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行っている。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	空気の入れ替えをしたり、季節ごとの花を飾っている。外を眺めて、天候についても話している。						◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファや椅子を数か所に置き、いつでも利用できるようにしている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンで仕切られており、プライベート空間は見えないようになっている。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	日々の生活の中で、利用者の好みを探ったり、家族への相談の機会を設けている。	◎		◎	自宅から持参した馴染みの家具や家族写真、テレビ、仏壇など、利用者にとって大切なものや使い慣れたものを持ち込んで、居心地よく過ごしてもらっている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりの設置、導線に物を置かないことで、安心かつ利用者の妨げにならないようにしている。				◎		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者が使用する際、危険と思われる物は、手の届かない場所や排除するようにしている。					廊下や共用空間には不要なものを置かないようにしており、移動する際の障害にならないよう配慮している。共用部や居室を示す掲示物は、イラストを用いて誰が見てもわかりやすく工夫し、認識間違いを最小にする工夫がある。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌や新聞はあるが、怪我のリスクに繋がるものは手の届かないところに置いている。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	利用者の行動を制限することが、虐待、精神的苦痛を与えることを職員一人ひとりが理解している。	◎	◎	◎	鍵を使用することの弊害を理解し、日中施錠はしていない。門扉や玄関ドア、各ユニットドアもオープンで、利用者は自由な生活を送っている。防犯上、夜間は施錠するが、出勤前に面会に来る家族もいるため、早期6時には開錠している。ユニット出入口にはセンサーがあり、外に出たい利用者にそっと付き添って対応している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時の案内の時にホーム長から家族へ説明している。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	鍵はかけていない。スタッフ間で連携をとり、所在不明の利用者がいないように把握している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	看護要約をみて、把握するように努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者に異状があれば、スタッフ間で確認しあい、記録もしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	異状時は看護師への報告を行い、主治医への報告受診などへの支援をしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけの把握。希望に沿う様に支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人と家族の要望を聞き、病院と施設だけではなく家族と病院との関係作りも支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	入所前に説明あり、受診後には家族へ連絡説明をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時にサマリーを提供し情報を共有している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	往診時、主治医への報告や相談を行い病院との情報を共有している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	看護師や往診時に主治医へ問い合わせるなど関係作りをしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	利用者に異状があれば、看護師へ報告し、受診を検討している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師が対応できるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	バイタルチェックなどで異状があれば看護師へ報告し、受診などの対応をとっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋に目を通し、薬の効果等を理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	各勤務帯のリーダーが服薬助動を行い、お互いで確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬で異状があれば、すぐに報告し、病院と連携をとっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	バイタルの推移や状態変化があれば看護師、医師、家族へ連絡するようにしている。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	本人、家族の希望を聞き、なるべく希望に沿えるように支援を行っている。	/	/	/	現状として事業所での看取りの実施はしていない。事業所としてできる支援を利用者や家族に理解が得られるように伝え、家族からは事業所での看取りを希望する声も聞かれている。利用者ごとに緊急対応についてマニュアルを作成し、統一した対応ができるように工夫している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	職員、医療関係者、主治医でも話し合い、方針や対応を共有している。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	緊急対応について話し合いマニュアルを作成するなどして対応を統一している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	長期の入院や医療行為への依存度などを家族へ説明して理解をもらっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族と話し合い、主治医からの意見も聞きながら、準備をしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の気持ちに寄り添い、支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	流行する前に定期的に勉強会を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	勉強会などで手順や資料などを配布して目を通すようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	様々な機関からの資料などから情報をもらっている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	流行状況を毎日確認し、警報が発令されると一律面会を控えてもらい、感染予防を行うなどの対応をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	作業後は必ず、手洗いを来訪者にもマスク着用と消毒を徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族とは常に連絡をとるようにしている。				お花見などの季節行事には家族に参加してもらい、利用者の生活に触れてもらっている。来訪する機会が少ない家族も含め、小さな事でもこまめに電話連絡をしている。毎月発行しているユニット便りには、利用者自身が家族に向けてひとこと添える取組みを始めた。職員の異動を含めた運営に関する報告は、家族が充分理解できるように伝え方を工夫して欲しい。家族の来訪時や電話連絡では、気兼ねなく相談してもらえよう、丁寧な対応を心がけている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	利用者の居室などで、自宅のように過ごしてもらっている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	お花見や夏まつりなど家族が参加できる行事を行っている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	日常生活報告書やユニット便りを毎月送付している。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時やケース会などで、家族の意見を聞き、報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会に来られた時など、話を聞くようにして関係を築くようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	施設での生活や日々の状況などの連絡事項を定期的に送付し報告している。		x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	様々な行事に参加していただけるように、機会を作っている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケース会などで、家族の方に説明し対応を考えている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時やケース会で話すようにしている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	十分な説明を行い、不安や疑問があれば対応している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	本人、家族に十分な話し合いをし、状態に応じた支援が出来る施設への入所などを支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	その都度、文書で示し家族に説明している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議などを通して、日々の利用者の様子などを写真や新聞で見てもらっている。	/	○	/	利用者の高齢化により地域に向く機会は減りつつあるが、地域住民やボランティアが来訪してくれる機会もあり、交流を図っている。地域防災や災害時支援など積極的に関わってもらい、事業所を地域の社会資源として捉えてくれていると感じている一方で、地域住民の高齢化も進んでいることも今後の検討課題となっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	施設に対して提案や協力をさせていただくことで、交流を図るように支援している。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	行事などで地域の方と関わる機会が少しずつ増えているが十分ではない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	ボランティアや行事などではあるが、十分ではない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩で近所に神社へ行ったり、近く的美容室を使ったりと交流はある。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	夏祭りや麦わら細工などで、地域とのかかわりを持つように支援している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くの神社に散歩に行く際などには、歩行能力に応じて移動手段を選ぶなどしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域との繋がりが深く、施設に対し協力を提案させていただき、行事のチラシを公民館に貼らせてもらうなどしてもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	会議に利用者や家族、地域の方、民生委員、行政の方など多くの参加がある。	○	/	○	運営推進会議は利用者や家族、地域住民の参加を得て開催している。高齢の参加者が増えてきたこともあり、開催時間帯を夜間から日中に変更している。利用者の暮らしぶりや評価結果について報告している。事業所の報告だけでなく、地域防災などの意見交換が積極的に行われ、運営に反映し、状況や結果などの報告を行っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価結果などを情報開示している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	利用者、家族、地域の方の意見などを参考にして取り入れ、また報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	以前まで夕方開催していたが、参加者の都合に合わせて、昼間に開催するなど工夫している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録は玄関に置き、誰でも閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所の理念や各ユニットでの理念を掲げ、日々理念に基づいた業務を心掛けている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	話し合う機会を設け、伝えられている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	教育部門があり、内部、外部研修を受けている。	/	/	/	研修体制が整っており、働きながら学ぶことができる。法人内では複数の事業所を運営しているため、スポーツなどの親睦活動の機会があり、職員の楽しみにもつながっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	指導担当者がしっかりと教育育成OJTを遂行できている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	会を定期的に関く、職員の声を聴き、職場環境、条件の整備を検討している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	外部研修や相互研修に参加し、学んだことを他職員へ伝え、サービスの向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	定期的に面談を行い、話を聞いたり、親睦会などを行い、ストレス軽減を図っている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的などのような行為なのかを理解している。	○	勉強会や研修で、学んでいる。職員間でも話し合っている。	/	/	/	虐待防止に関する研修会で定期的に学んでおり、身体拘束委員会の発足を経て、虐待や不適切なケアについて理解や発見時の手順の理解を深めている。現在、検討する課題はないが、職員のストレスが不適切なケアへの引き金になることも理解し、注意し合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日の申し送りを行い、毎月ケアプランに沿ったケアが出来ているか確認している。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会や外部研修研修で学んでいる。職員間でも話し合っている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員個々の状況を把握し、面談などを行い注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会や外部研修研修で学んでいる。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	委員会を設置し、勉強会を設け、職員同士で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時に十分な説明を行い、理解していただいている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会や外部研修で学んでいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	入所時や問い合わせがあったときに説明対応している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	研修に参加し、制度を職員間で話し合っており理解し、連携がとれるようにしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルに準じて、迅速な対応ができるように周知されている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	実践力が身につくよう定期的に勉強会や研修に参加できる機会がある。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットと共に、気づきノートを職員間で共有しながら再発防止について検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケース会で情報交換、共有する機会があり、状態変化についてリスクを検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	職員間でマニュアル、資料を通して苦情について適宜検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情相談受付体制を整備し、適宜対応している。苦情があれば都度原因や対策を検討している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対応策を検討して苦情防止努め、少しでも良好な関係が保てるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	窓口、意見箱を設置し、早期に対応できる体制をとっている。運営推進会には利用者も参加でき意見要望を聞くようにしている。			○	玄関ホールに意見箱を設置し、利用者や家族が無記名で投稿できるようにしている。日常的に利用者には日常の生活の中で意見を伺い、家族には来訪時や電話連絡の際に意見を伺っている。また、職員の提案を受け付ける提案箱も設置しており、運営のアイデアや改善したいことを自由に投稿することができ、調理に関する負担軽減の希望があり、調理済み食材の利用を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議以外に、家族会や面会時に苦情等があれば適宜対応している。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	面会時などに声かけし、番々丸の思いを聴くようにしている。公的な窓口としてはホーム長が適宜情報提供している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ケース会への参加や適宜直接して管理者と意見交換、検討等をしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的に個別に面談して、提案や相談を通して、より良い運営に向けて検討している。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	管理者、職員ともに、サービス評価を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。				運営推進会議では外部評価に関する報告を行っているが、参加できなかった家族には十分に取組みを理解することが難しい状況である。今後はわかりやすい説明や、取組み状況を定期的に報告して意見をもらうことで、モニターとしての機能を活用しながら風通しのよい運営につながることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	全て評価後、課題などに関して職員間で共有できる資料がある。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標に向けて、計画書を作成し、可能な限り取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議を通して、参加メンバーと利用者家族への報告を行っている。	△	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議などで、目標達成について成果の発表、確認を行っている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害対応マニュアルを作成しており、それに基づいて対応できるよう、避難訓練等を定期的に実施している。				地域防災には積極的に取組む地域性があり、地域住民は事業所の災害対策にも協力的である。法人内の別事業所で土砂災害があったことをきっかけに、法人本部に災害対策本部を設置し、災害時の対応や備蓄品などの整備を行っている。利用者の居室ドアには利用者の移動方法をイラストで掲示し、外部の支援者にもひと目でわかるよう工夫している。警察や消防署とも連携が取れていて、被災時の連絡支援の協力や訓練への参加が得られている。運営推進会議でも災害に関する話し合いや、炊き出し体験などの具体的な取組みがある。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	定期的に、夜間、日中などの時間を想定した避難訓練を計画実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や避難経路の指示、非常食等の点検を行い、把握している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署の方を招き、指導を受けたり地域住民との合同訓練をする機会がある。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域のネットワークづくりに参加して、災害対策に取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議などで、地域の方や家族に向けて日々のケアについて情報提供に取り組んでいる。				運営推進会議内でも、地域住民についての相談について話題になることがある。前施設長が地域の役員をしていたこともあり、地域からの介護保険や認知症についての相談は多い。事業所周辺の小学校や中学校から生徒が来訪する機会もあり、高校生ボランティアも受け入れている。また、最近では高校に招かれ、現場の職員が講義をすることもある。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば、できる範囲の相談または助言をしている。		○	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	夏祭り等、イベントを開催して地域の方が集える機会を提供している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや学生、実習生の受け入れを適宜実施している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	イベント、ボランティア、勉強会を通して地域の色々なことに参加している。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年10月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600735
事業所名 (ユニット名)	グループホーム多賀の里 式丁目
記入者(管理者) 氏名	武田良太(目見田恵子)
自己評価作成日	令和元年 8 月 30 日

<p>【事業所理念】</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 若い職員や男性職員配置の多い職員構成のため、明るく活気に溢れている印象である。ユニットごとに目標を掲げており、生きがいを見つける、心安らぐ生活といったユニットの利用者に合わせた支援の方向性がキーワードとなっている事業所地域は地域ぐるみの地域防災に長け、事業所で行う認知症ケアにも理解があり、受け入れられている様子が窺えた。事業所としても地域に支えていただいていると感謝の念を持ちながら、利用者の毎日を支えている。</p>
----------------	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の関わりで表情や会話の中から把握できるよう努めている。	◎	/	◎	入居前に直接で暮らし方の希望や意向を伺い、入居後の日々の支援の中でも利用者との会話に耳を傾け情報を収集している。収集した情報はアセスメントシートにまとめ、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族様に生活歴を聴き趣味や好きだった物等の情報を踏まえ現在の生活状況からどのように生活を送るのが良いか検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族様が面会時やケース会に来られた利用者様の様子を話し情報交換を行っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントシートを作成し情報を共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者様の情報は職員全員で共有し気になる等は話し合い支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	アセスメントシートを活用したり面会時やケース会等で情報収集を行っている。	/	/	◎	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方などについて、利用者や家族、利用してきたサービス事業所から情報収集している。日々の生活の中でも少しずつ関係が深まっていくと自然に情報が増えている。アセスメントシートを更新させながら職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	利用者様の言動や行動に変化があれば申し送りを行い生活記録や申し送りノート、気づきノート記入することで情報を共有することで把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の関わりの中で気分が落ちついたり、不安になったり変化があれば生活記録に記入したり申し送りをしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	不安定になる前の様子や生活歴の内容からケース会等で不安要素はなにか話し合い把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の申し送りや24時間シートを活用し変化や違いを把握できるように努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	職員や家族様から聞いた情報、御本人の言動や行動、訴えをケース会で話し合い検討している。	/	/	◎	課題を分析する際には可能な限り利用者や家族に参加してもらうことで、利用者視点に近づけるように努め、ケース会で職員の意見を出し合って検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	御本人の生活歴や性格、好みを把握したうえでケース会を行っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケース会で検討した内容に基づきやモニタリングや介護計画を作成し課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日々の会話や関わりの中で希望や要望があればそのことについてケース会等で話し合いをしている。	/	/	/	ケース会では担当職員が中心となって課題やケアのあり方について話し合っている。利用者や家族からの意見を踏まえ、介護支援専門員や計画作成担当者が介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ケース会に家族様も参加できる方は参加して頂き参加できない方は面会時や電話等で日々の様子を伝え要望を聴き作成している。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族様面会やケース会に来られた際に生活歴や好きな食べ物等聞き職員間で情報を共有している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族には病院受診を協力して頂いたり、地域の方には 歌謡ショーを開催して頂いている。介護計画書に反映している。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月に1回ケース会を行い介護計画書の内容の共有している。すぐわかるように会報告書、各利用者様の介護計画書をファイリングしている。	/	/	◎	ケース会で介護計画の内容を理解し、日々の生活の中でも理解が深まるように話し合いを行っている。介護計画にそったケアの実施状況は生活介護記録に詳細に記録し、来訪時の家族にも確認してもらっている。利用者の暮らしの様子や支援した具体的内容も生活介護記録に記録し、職員の気づきや工夫などは気づきノートに記入している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の様子やケアの実践結果等をケース会等で話し合いその内容を議事録やモニタリングを記入し職員間で情報を共有し日々の支援に繋げられるよう努めている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々記録として言葉や様子を生活記録に記入している。 身体状況は生活記録と申し送りノート、気づきノートに記入し状態の変化に留意している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気づいた事やアイデア等はその場スタッフ同士で話し合い申し送りに記入。ケース会で話し合いをするようにしている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間終了前にケース会で介護計画書の内容について検討し話の内容を踏まえ計画作成担当者が作成している。	/	/	◎	3か月ごとに見直しを行い、毎月のケース会で現状確認を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合には、利用者や家族と意見を出しながら随時介護計画を見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回は必ずケース会を行い利用者様の現状を確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	退院後や身体に変化がある時は、看護師や医師、家族様と話しをし計画書を見直している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	1回はケースを開き利用者様の様子、課題等を話し合っている。緊急案件がある時は、その場にいる職員で話し合いをしたり、参加できる職員でケース会をている。	/	/	◎	ケース会を主な課題解決の場としているが、緊急案件だけでなく疑問点がある場合には当日の勤務者で話し合っている。参加できない職員にはあらかじめ意見を先に聞いておき、全員の意見を出し合うように工夫し、話し合った内容は会議録で確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日ごろから職員同士コミュニケーションをとりながら良い雰囲気にも努め意見交換ができやすい職場環境作りにも努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	勤務以外の職員と管理者が参加しているが開催が17時からの為、家庭の事情で参加できない職員もいる。参加できない職員の意見等を聞きその内容をケース会で話している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	変更があれば口頭で伝えたり、申し送りノートに記入したり、議事録を作成し情報を共有をしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	朝・夕申し送りを行い何か変化があれば申し送りノートや気づきノートに記入し情報の共有をしている。	/	/	◎	家族とのやりとりを含め、口頭での申し送りを行っている。申し送りノートや気づきノート、会議録を確認することで重要な情報を全職員に伝達し、サインをして確認している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要な要件は申し送りノート、気づきノートに記入し情報の共有、伝達ができるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者様と日々会話やコミュニケーションを持つことで、御本人の希望を聴きできる限り行うようにしている。				画一的な支援ではなく、個別や少人数で散歩を行ったり、洗濯物干しなどの家事を一緒にしたりと、暮らしの様々な場面で楽しめるように複数の選択肢の中から自由に選べるように機会を増やしている。個別や少人数での関わりの中で、じっくり話をするなどで、本音が引き出せることも多く、自発的な発言が聞かれている。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	家事やレクリエーションの参加の有無や何かやりたい事があるか聴き取り組むようにしている。					◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日々の関わりの中で思いをくみ取ったり、会話の中で希望や思いを聴き支援している。						
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	食事の時間や入浴開始から終了時間は決まっているがその中で御利用者のペースに合わせて対応するようにしている。排泄は排泄パターン把握し声をかけている。						
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	コミュニケーションを多くとり御利用者さんと冗談を言って笑ったり趣味の将棋や囲碁と一緒にやっている。家事仕事をしたりし明るい雰囲気作りを努めている。						◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や仕草、言葉などから思いをくみとり意向に添えるように努めている。						
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	施設内での勉強会や研修に参加し報告書を作成。参加できないスタッフにも情報を共有したり、朝の申し送りやケース会等で言葉かけや態度について注意喚起を行っている。		◎	○	◎	◎ 利用者の人権や尊厳について話し合いの機会を持ち、尊敬の念を持って対応するよう心がけている。言葉は丁寧すぎず、ごく自然であり、声の大きさに気をつけながら優しい対応を行っている。利用者の居室ドアの開閉については事前に希望を確認して対応しているため、当日のが気温や天気によって開放されていることも多い。評価調査時の見学では、ノックや声かけ、説明を行って入室する様子が確認できた。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	声掛けや誘導の際には声の大きさに注意し状況に応じ対応するように努めている。						
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	トイレの声かけ等は側で声を掛けたり歩行練習中さりげなく声を掛け誘導している。入所し間がない女性利用者様はしばらくの間トイレや入浴介助女性職員が対応している。						
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	部屋に入る際はノック声を掛けて入室するようにしている。						◎
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入職時に誓約書を読み理解した上で、個人情報やプライバシー保護について厳守している。他に毎年勉強会を開いて理解を深めている。						
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事仕事をして頂いた際には感謝の言葉を伝えたり御利用者から労いの言葉を掛けて頂いたり、調理の際には味付けを教えて頂いたり良い関係性が築けるよう努めている。					◎ 利用者同士の相性や、親しさに応じて配席誘導を行い、仲の良い利用者がソファ席でおしゃべりを楽しむ様子が窺えた。大声をあげてしまう利用者もいるが、さり気なく職員が間に入ってトラブルを未然に回避していた。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士で気づかい声を掛け合ったり、協力しあって家事仕事や壁紙作りなど一緒にすることで「皆がいるから楽しい」と言われる。御利用者もいる。						
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	リビングの席は仲の良い方は隣り同士や同じ席になっている。又トラブル等あればスタッフが間に入り話をしている。						◎
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになった際には、すぐに仲介にはいり両方の利用者様の話を聴き対応している。						

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所時やケース会、面会時又御本人から話を聞き把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時や入所されてからも家族様や本人様にきて出来る限り把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	知人や友人に会いに行くことはないが知人の方が施設に来られる事はある。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた際は笑顔で挨拶したり、自室へ誘導しお茶を出しゆっくり過ごせる時間を作っている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	日光浴表を作成。散歩に行くときは、行っていない利用者様を優先し声掛けをしている。洗濯物を干しに行ったり、日光浴以外のベンチへ行けるよう支援している。	○	△	○	「コスモスが咲いたから見に行こう」など、ユニットごとに少人数で対応し、日常的に散歩に出かけている。車いすの利用者も1日中事業所内で過ごすことがないよう配慮し、散歩や日光浴を行っているが、季節や体調に応じてもっと機会を意識的に増やしていきたいと考えている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方が育てたレンゲ畑を見に行ったりしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	野外の温度や天候、利用者様の状態を考慮しながら外出支援をしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	毎月1回はなじみのある場所へ出かけるようドライブの計画を立てている。又家族へも参加できるか尋ねている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の勉強会に参加し理解を深めている。				車いすの利用者が職員と目的を確認しながら自走している様子が確認できた。アセスメントにより、できることはなるべく利用者自身にしてもらう姿勢で支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ケース会等で1人1人の状態を把握し機能の維持や向上が図れるよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できそうな事は、手を出さず見守りや声掛けをしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所時の生活歴やアセスメント日々の生活等を踏まえ把握するようにしている。				水やりや洗濯物干しをすることを役割としている利用者もいる。全体的に利用者は高齢化しており、集団での活動や作品作りは難しくなっていると感じているため、家事作業や利用者のできそうな作業を共にしながら楽しみを見つけるように支援している
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	できる事は一緒に言い感謝している。将棋や囲碁の好きな利用者様と対局をしている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域での役割はあまりない。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	選べる利用者様には服選びをして頂いている。季節に合った服が着れるようにしている。	/	/	/	どの利用者も季節に応じて身だしなみを整えており、プライドに配慮した支援に努めている。散歩に出かける利用者が座って靴を履き替えている際に、介助しながらそっと下着や靴下を整えている様子が窺え、さりげない配慮が感じられた。重度の利用者も家族の協力を得ながらこれまで好んできた髪型や服装に整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	御本人が以前から使用していたものを使って頂いたり家族様から持ってきて頂いている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者様の性格を把握し表情や仕草をみて支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時や行事の際にはそれにふさわしい服装を用意したり利用者様と決めている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく汚れを拭きとったり、更衣を促している。	/	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族様や御本人の希望があれば対応するが現在希望がない為、施設でお願いしている美容師さんに来ていただいている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	以前から着ていた好みの服を着て頂いている。髪型は家族の要望を聞きカットしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解し、利用者様の食事状態を把握している。	/	/	/	利用者は献立の希望を出し、下ごしらえや片付けを職員と共にしている。嗜好やアレルギーについて入居時に把握し、病状にも配慮しながら提供している。芋炊きなどの地域で慣れ親しんだ献立に、にこやかな反応が見られた。コップや茶碗は個人のものを使用し、他の食器類は使いやすく、軽量のものを用意している。職員も同じ食卓と一緒に食事をしながら食事の介助を行っている。重度の利用者も皆でリビングに集って食事を楽しみに待っている様子が見られた。使用する食材が偏らないように、調理方法、提供する形態の工夫などの話し合いを行っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者様の要望を聴き献立を作成したり、お盆拭き等できるところは参加して頂いている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者様ができる事は積極的にしてもらい日々の生活に意欲が出るように支援している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族様や御本人入居前に話を伺っている。又入所後も話を聴いて把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギーの有無や好き嫌いが入居時に家族様から聞いている。日々のコミュニケーションでも知り献立に取り入れている。又季節に合わせて旬の食材を取り入れたり季節のイベントに合わせて献立を作成している。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様の身体状態を把握し自力にて食事ができるよう調理方法や盛り付け等を工夫している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅で使用していた湯飲みやお茶碗を使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様のペースに合わせて声掛けや介助を行いながら一緒に食事を食べている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わかるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにいると料理のにおい、音を感じたり職員とコミュニケーションをとったり、家事仕事して頂き雰囲気作りを行っている。	/	○	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	毎食利用者様の食事量・水分量のチェック表に記入し量の確保ができるようにしている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量の少ない方は、御本人の好みを考慮しながら、回数や内容を工夫し提供している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は順番でスタッフで旬なものをや利用者様の好まれる物を考え作成している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板は使用後はハイター消毒し料理を行う前にはテーブルをHCL消毒し調理している。手袋を使用し調理。食材等の衛生管理日々注意を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は口腔ケアの重要性を理解し毎食後口腔ケアの声掛けや見守り、介助を行っている。	/	/	/	アセスメントで全利用者の口腔内の健康状況やケア方法について把握している。毎食後、歯磨きを実施し、できることをやってもらいながら口腔の清潔を支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの介助時やアセスメントシートをもとに把握している。口腔ケア時チェックしている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	定期的に言語聴覚士を招き指導して頂いている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者様に声掛け洗面台に誘導、義歯のブラッシングを行っている。夕食後は毎回除菌剤で消毒を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	利用者様の能力に合わせ見守りや介助を毎食後行っている。その都度口腔内のチェックと義歯の手入れ等も行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	歯茎の腫れ等異常がある時には、看護師に相談し歯科受診をしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	個々の排泄パターンや習慣を把握しトイレへの声掛け、誘導を支援している。	/	/	/	排泄パターンを把握し、個別に声をかけてトイレ誘導を行い、日中はトイレでの自然排泄を基本に支援している。状態に合った適切な排泄用品の使用を検討し、家族の意見も取り入れながら布パッドを使用してみるといった工夫を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	身体的、精神的に及ぼす影響について職員間で共有している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	日々の関わりの中から排泄表をみて、排泄パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々の状況に合わせ紙パンツ、パッド使用している。排泄パターン把握し失禁や御本人の不安がなくなればケース会等で話し合い布パンツ変更している。	/	◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	日々の関わりの中で気づいた事をケース会やその場で話し合っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を、毎日付け間隔や排泄量を把握し声掛け誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄チェック表や生活記録を参考にしケース会等で話し合い布パンツに変更できるよう検討している。家族様にも報告している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中・夜間時間帯で使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	前屈運動や歩行練習を促したり毎朝食時にヨーグルト食したり、水分補給を促している。センナ茶を飲用して頂いたり、お腹を温め排便を促している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	お昼からの入浴になるが体調面に留意し個々にあった声掛け、タイミングで入浴できるよう支援している。	/	◎	/	1階ユニットの浴室にはリフトが設置しており、必要に応じて全ユニットの利用者が使用できる、毎日の入浴も可能であり、利用者の希望や体調を考慮しながら対応している。湯温度や順番なども配慮して、気持ち良く入浴できるように支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	季節によりゆず湯にしたり、御本人のペースで入浴できるよう声掛けている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	手の届く所は御自分で洗って頂いている。浴槽に出入りする際は個々の力に合わせ支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否の理由、声掛けのタイミングや声の掛け方を職員で話し合い気持ち良く入浴できるように努力している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、検温測定又利用者様によって血圧測定を行い入浴中、入浴後様子観察を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の様子を生活記録に記入し日中の様子も合わせ夜間の睡眠パターンの把握に努めている。				夜眠れるように日中を活動的に過ごし、薬に頼らない支援を心がけている。眠れない利用者には、無理強いすることなくリラックスできるように寄り添っている。薬の使用については主治医に相談し、状態に見合った処方を受けている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠の方には健康状態、排便の確認、日中の様子を確し 活動量が少なければレクリエーションに参加促したり、便秘傾向の方には看護師相談し対応している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	×	入所前に服用していた場合でも、家族様、医師、看護師と相談し服用量を減らしている。睡眠導入剤服用の場合は、ユニット職員、看護師、Dr、家族様と十分話し合い服用している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	しんどそうにされているや、訴えがある時はリビングのソファや和室、自室で横になり休まれている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	利用者様から希望があれば対応している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	電話や手紙を御自分からしたいと言われる方がいないが、お正月には年賀状を書くのを進めたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	ユニットの事務所内に電話置いているが使用する利用者様いない。訴えがあれば対応する。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は御本人に渡し読んで頂いたり、職員が読んでいます。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	その都度家族様に報告し協力を得られるよう努力している。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	現在は個々にお金を所持している利用者様はいないが使う事の意味や大切を理解は共有している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的にはないがドライブに出かけた際には好きな物選び食べて頂いている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	ドライブに行く際は行き先に事前に連絡しお願いをしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	現在金銭管理してはいないが敬老のお祝い等で現金を頂いた際は家族様に相談し了解頂き、本人と話しほしい衣服など購入している。購入した物は写真に撮り説明している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時やその都度話し合い本人や家族様の意向を確認している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	個々に管理している方はいないが以前は出納長をつけ面会時に出納長と残金確認を職員、家族様、ご本人と一緒に確認を行っていた。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時の状況に合わせ対応している。	◎	◎	家族からの依頼で、受診同行に応じることが多い。利用者や家族のその時々々のニーズには、柔軟な姿勢をもって応じるように努めている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先に休憩できるようベンチを置いたり、季節にあった飾り絵や花を飾り季節感を取り入れるように努めている。	◎	◎	◎	門扉や玄関ドアは開放されており、利用者が出迎えてくれ、気軽な雰囲気を感じられた。広い玄関ホールにはテーブルやいすの設置があり、事業所や地域情報を閲覧することができる。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	壁には利用者様が作成した習字や塗り絵を飾ったり日々の様子の写真を掲示するなどし雰囲気作りを行っている。	◎	○	◎	共用空間は、ソファ席やテーブル席、量のコーナーと、その時の目的や気分に応じた使い方ができ、家庭的な家具や和調の調度品で居心地の良い空間を演出している。職員紹介やユニットの目標を掲示し、利用者や家族と共有している。自然光をたっぷり取り入れて明るく、毎日の清掃が行き届いた清潔な空間である。季節の花々を飾り、利用者の目線に合わせた位置に行事写真を掲示して、利用者の反応を引き出すことができている。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	音や光室温等利用者様が快適に過ごせるよう適時配慮するよう努めている。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	床の間には季節感のある生け花や置物を飾っている。散歩に行き積んできた花を飾る等し季節を感じられるようしている。	○					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファや和室で自由に休めるよう支援している。	○					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンをつける等しリビングから見えないようにしている。	○					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時になじみのあるもの等の持ち込みを進めている。	◎		◎	自宅から持参した馴染みの家具や家族写真、テレビ、仏壇など、利用者にとって大切なものや使い慣れたものを持ち込んで、居心地よく過ごしてもらっている。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室には名札を貼りトイレや浴室にも目印を貼っている。				◎		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	個々が不安となる要素の物は置かないようにしている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	個々が好む物はいつでも共有できるように配慮している。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解しており日中は、いつでも外に出れるようにしている。	◎	◎	◎	鍵を使用することの弊害を理解し、日中施錠はしていない。門扉や玄関ドア、各ユニットドアもオープンで、利用者は自由な生活を送っている。防犯上、夜間は施錠するが、出勤前に面会に来る家族もいるため、早朝6時には開錠している。ユニット出入口にはセンサーがあり、外に出たい利用者にとっと付き添って対応している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中はいつでも出入りができることを説明している。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	出入り口には音が出るものを設置し、外出時には気がつけるようにしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェースシートに細かく記入し目を通している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	1日は3回の検温と必用に応じて血圧も測り記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる事があれば看護師に相談し必要に応じて受診し早急な対応をしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	他の医療機関は家族様受診の同行を依頼している。家族様行けない時は、社員が同行している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族様の希望される医療機関への受診もその都度行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診する際は、家族様に報告し受診している。受診結果等その都度報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーへの細かな記入を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	往診等の際に病後について医師との相談を行っている。又病院に行った際に看護師に状態の確認を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	往診時に個々の状況について細かく伝達を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	小さな気づきや変化に対し、すぐに看護師に報告し必用であれば主治医の指示のもと受診を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師、協力医療機関には24時間連絡相談できるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	少しでも気になることがあれば看護師に報告し、必要に応じ受診している。往診時等に医師に看てもらっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者様個々に処方箋ファイルがあり、詳細は処方箋に記入されているので社員はファイルを閲覧し把握に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	時間帯に応じた勤務社員が服薬支援をしている。服用の際は名前を読んで確認し、服用後はチェックを入れている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々、利用者様の状態については社員間で情報共有し看護師にも相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	毎日、バイタル測定を行い、状態や変化を生活記録用紙に記入している。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に施設の方針や家族様の希望した上で、その後変化が合った場合その都度、家族様と話し合い意向の確認を行っている。	/	/	/	現状として事業所での看取りの実施はしていない。事業所としてできる支援を利用者や家族に理解が得られるように伝え、家族からは事業所での看取りを希望する声も聞かれている。利用者ごとに緊急対応についてマニュアルを作成し、統一した対応ができるように工夫している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	社員、主治医、家族様と話し合い支援の方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	情報共有を密に行う事で現状の把握に努め、見極めをおこなっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時やその都度説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族様と話し合いを行い、家族様、御本人の思いをくみ取り重度化支援の流れを検討し主治医との連携を図りながら準備をしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ケース会や面会等で話を聴きより良い対応ができるよう支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症に関する勉強会を年1回開催している。	/	/	/	現状として事業所での看取りの実施はしていない。事業所としてできる支援を利用者や家族に理解が得られるように伝え、家族からは事業所での看取りを希望する声も聞かれている。利用者ごとに緊急対応についてマニュアルを作成し、統一した対応ができるように工夫している。
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	発生時の対応マニュアルを作成し社員が共有できるようにしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	様々な機関から情報を入手し流行等チェックしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	感染の流行に合わせ、面会や外出を控えるよう対策している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	作業前・後は必ず、手洗い消毒を行い入口にも消毒を置いている。感染症の流行時には職員来訪者にマスクの着用をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様と連絡を取りながら、相談や要望を聞き入れたり意見交換を行い、社員と一緒に御本人の事を考えるようにしている。				お花見などの季節行事には家族に参加してもらい、利用者の生活に触れてもらっている。来訪する機会が少ない家族も含め、小さな事でもこまめに電話連絡をしている。毎月発行しているユニット便りには、利用者自身が家族に向けてひとこと添える取組みを始めた。職員の異動を含めた運営に関する報告は、家族が充分理解できるように伝え方を工夫して欲しい。家族の来訪時や電話連絡では、気兼ねなく相談してもらえよう、丁寧な対応を心がけている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会に来られた際は笑顔で挨拶したり、コミュニケーションをとり気軽に入れるよう努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	お花見会や夏祭りドライブに出かける時など参加できるか尋ねている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	日常生活報告書とユニットだより、を毎月送付している。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ケース会や家族会に参加して頂き意見交換を行っている定期的にアンケートを取り結果を社員に報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族様から利用者様の生活歴、嗜好を聴き適切な支援ができるようにしている。認知症への支援や対応についても意見交換し家族様、利用者様の良い関係の継続に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	連絡事項はその都度定期的に報告している。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	ドライブや夏祭り、花見会、家族会、運営推進会に参加を呼びかけ交流ができるよう努めている。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについては入所時に説明し、新たなリスクが発生が発生した際はその都度家族様と話し合いをしている。社員間で出た意見も参考にしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時の積極的な声掛け、定期的な電話連絡で意見や希望が伝えてもらいやすい雰囲気を作っている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	施設長から家族様、御本人へ十分な説明を行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居については施設規定に基づいた決定過程を施設長より説明を行っている。移転先の相談や支援をすることもある。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時、料金改定時は文章で説明を行い同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会などを通じて地域の方の理解を得るようにしている。	/	○	/	利用者の高齢化により地域に向く機会は減りつつあるが、地域住民やボランティアが来訪してくれる機会もあり、交流を図っている。地域防災や災害時支援など積極的に関わってもらい、事業所を地域の社会資源として捉えてくれていると感じている一方で、地域住民の高齢化も進んでいることも今後の検討課題となっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	町内会で行われる防災訓練に社員が参加したり、散歩時には挨拶し、夏祭りなどの行事には地域の方に参加してもらっている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の方も高齢になり支援者は増えることはない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	イベント時には来て頂けるが普段は来られ事は少ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩時など気軽に声をかけあっている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	夏祭りには多くのボランティアの支援がある又定期的にコーラスや歌謡ショーなどのボランティアの方にきて頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	利用者様のカットを地域の美容室の方に訪問して頂いたり普段食す食材の一部を地域の業者と契約し提供することで地域資源の利用と利用者様の安心・安全豊かな暮らしに繋がっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の朝市に出品したり、散歩で行く神社をボランティア清掃等行い良い関係を深めている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加してくれている	○	/	○	運営推進会議は利用者や家族、地域住民の参加を得て開催している。高齢の参加者が増えてきたこともあり、開催時間帯を夜間から日中に変更している。利用者の暮らしぶりや評価結果について報告している。事業所の報告だけでなく、地域防災などの意見交換が積極的に行われ、運営に反映し、状況や結果などの報告を行っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の目標達成計画の内容と取り組み状況を報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や提案を取り入れ、実施し報告もしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進会を夕方から日中の時間帯への開催に変更し、多くの方が参加できるようにしている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	公表している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は玄関に掲げ、名札の裏にも印刷している。目に入ることで日々意識出来ていると思う	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	目に入りやすいところに掲げている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	それぞれに合った研修を受けている。	/	/	/	研修体制が整っており、働きながら学ぶことができる。法人内では複数の事業所を運営しているため、スポーツなどの親睦活動の機会があり、職員の楽しみにもつながっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	入職した初期のころには、チェックリストを使用し、介護業務の理解度を計画的に把握し理解が深まるよう援助している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々に合わせた勤務形態を作っている。定期的に面談を行い把握している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	会社内で他の事業所の方と交流する機会をつくり、勉強会などを行い、意識の向上に努めている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	定期的にスポーツ交流や食事会などを行っている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に勉強会を開き、理解を深めている。	/	/	/	虐待防止に関する研修会で定期的に学んでおり、身体拘束委員会の発足を経て、虐待や不適切なケアについて理解や発見時の手順の理解を深めている。現在、検討する課題はないが、職員のストレスが不適切なケアへの引き金になることも理解し、注意し合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝に3ユニットでの申し送り、夕方は各ユニットに来て様子確認月に1回ケース会に参加し話合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	入浴時や更衣時には、体に異変はないか確認し、異変があれば職員同士報告しホーム長へも連絡する。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	社員や利用者の様子には、常に気を配っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会等で全社員が理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	2ヶ月に1回身体拘束について勉強会を開き話合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族にも説明し拘束を行わない事に関して理解を求めている	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	権利擁護に関する資料を誰でも見れるところに常設している。また研修でも学んでいる				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	管理者などにより制度の説明や相談などの支援を行っている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	利用者様ができる事は積極的にしてもらい日々の生活に意欲が出るように支援している。必要な支援を受ける事ができるよう各機関と連携を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルに応じて的確な対応ができるよう周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	年1回は消防署の方に来ていただき心臓マッサージやAED使用の訓練の行っている。施設内でも勉強会を開催している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書以外にも、少しの事でも気づきノートに記入し情報を職員で共有し再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケース会等で社員同士、家族様と話し合い事故防止に努めている。事故報告あれば安全対策委員会でも話し合い他の部署からも意見頂き対策に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルについて職員間で周知できるよう資料などを通して苦情について適宜検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情相談受付体制を整備し、適宜対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対応策を検討して苦情防止に努め、少しでも良好な関係が保てるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	2か月に1回運営推進課を開催している。利用者様も参加している。面会時、家族会苦情等あれば聴き対応するように努めている。			○	玄関ホールに意見箱を設置し、利用者や家族が無記名で投稿できるようにしている。日常的に利用者には日常の生活の中で意見を伺い、家族には来訪時や電話連絡の際に意見を伺っている。また、職員の提案を受け付ける提案箱も設置しており、運営のアイデアや改善したいことを自由に投稿することができ、調理に関する負担軽減の希望があり、調理済み食材の利用を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会、面会や家族会意見や要望、苦情等あるか聞いている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的な窓口について、ホーム長が適宜情報提供している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	ケース会への参加やユニット業務の手伝いや適時面接し意見交換できている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的に個別に面接して、提案や相談してより良い運営に向けて検討している。			◎	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	管理者、全職員間で自己評価についてサービス評価の検討、理解に努めている。	/	/	/	運営推進会議では外部評価に関する報告を行っているが、参加できなかった家族には十分に取組みを理解することが難しい状況である。今後はわかりやすい説明や、取組み状況を定期的に報告して意見をもらうことで、モニターとしての機能を活用しながら風通しのよい運営につながることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価後、課題などに関して職員間で共有できる資料がある。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	計画書を作成し可能な限り取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議を通して参加メンバーと利用者家族への報告を行っている。	△	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等で、目標達成について成果の発表、確認をしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	災害についてマニュアルを作成している。対応できるよう毎月1回防災訓練を行っている。	/	/	/	地域防災には積極的に取組む地域性があり、地域住民は事業所の災害対策にも協力的である。法人内の別事業所で土砂災害があったことをきっかけに、法人本部に災害対策本部を設置し、災害時の対応や備蓄品などの整備を行っている。利用者の居室ドアには利用者の移動方法をイラストで掲示し、外部の支援者にもひと目でわかるよう工夫している。警察や消防署とも連携が取れていて、被災時の連絡支援の協力や訓練への参加が得られている。運営推進会議でも災害に関する話し合いや、炊き出し体験などの具体的な取組みがある。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間を想定した訓練等実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や避難経路の指示、非常食等の点検を行い把握している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署の方を招き指導を受けたり、地域住民との合同訓練をする機会がある。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域のネットワークづくりに適宜参加して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議などで、地域の方や家族に向けて日々のケアについて情報提供に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議内でも、地域住民についての相談について話題になることがある。前施設長が地域の役員をしていたこともあり、地域からの介護保険や認知症についての相談は多い。事業所周辺の小学校や中学校から生徒が来訪する機会もあり、高校生ボランティアも受け入れている。また、最近では高校に招かれ、現場の職員が講義をすることもある。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	必要に応じて家族等への相談支援をしている。	/	○	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	夏祭り等、開催して地域の方が集える機会を提供している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや実習生の受け入れを適宜実施している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	ボランティアや勉強会を通して地域での協同に参加している。	/	/	◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年10月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870600735
事業所名	グループホーム多賀の里
(ユニット名)	壺丁目
記入者(管理者)	
氏名	難波江卓矢(目見田恵子)
自己評価作成日	令和元 年 8 月 20 日

<p>【事業所理念】</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 若い職員や男性職員配置の多い職員構成のため、明るく活気に溢れている印象である。ユニットごとに目標を掲げており、生きがいを見つける、心安らぐ生活といったユニットの利用者に合わせた支援の方向性がキーワードとなっている事業所地域は地域ぐるみの地域防災に長け、事業所で行う認知症ケアにも理解があり、受け入れられている様子が窺えた。事業所としても地域に支えていただいていると感謝の念を持ちながら、利用者の毎日を支えている。</p>
----------------	---------------------------------	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常のさりげない会話や様子から本人の思いを汲み取るよう努めている。また、普段の会話の中から知り得た情報は申し送り、情報共有している。	◎	/	◎	入居前に面接で暮らし方の希望や意向を伺い、入居後の日々の支援の中でも利用者との会話に耳を傾け情報を収集している。収集した情報はアセスメントシートにまとめ、職員間で共有している。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の立場に立ち、ケース会等で社員同士意見交換し検討している。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時にお話しを聞いたりしているが、全家族には難しく、あまり面会に来られない方もいる。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	24時間シートを活用し、思いの共有に努めている。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	日々の業務に流されてしまうと、見落としてしまうことがある。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に情報を頂いており、どのように今まで生活されてきたかお聞きしている。	/	/	◎	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方などについて、利用者や家族、利用してきたサービス事業所から情報収集している。日々の生活の中でも少しずつ関係が深まっていくと自然に情報が増えている。アセスメントシートを更新させながら職員間で共有している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	出来る事に対し、利用者様に役割を持ってもらうよう支援している。	/	/	/			
c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	不安の訴えや不穏になった時の状況を申し送りや記録に残している。	/	/	/			
d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	社員間で話し合い、対応を変えるなどし、要因の把握に努めている。	/	/	/			
e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24時間シートを活用し、一人ひとりに合った生活が送れるように利用者様を把握し、支援に努めている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	入所の際や介護計画書更新の際に、本人や家族から希望を尋ねるようにしている。	/	/	◎	課題を分析する際には可能な限り利用者や家族に参加してもらうことで、利用者視点に近づけるように努め、ケース会で職員の意見を出し合って検討している。
b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の申し送りやカンファレンス等で話し合っている。	/	/	/			
c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	介護計画書を作成し、課題を明らかにしている。	/	/	/			

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人、家族の意向を介護計画書に取り入れるようにしている。				ケース会では担当職員が中心となって課題やケアのあり方について話し合っている。利用者や家族からの意見を踏まえ、介護支援専門員や計画作成担当者が介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族の要望、体調の変化を把握した上でケース会等で話し合い、介護計画書を作成している。	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日々の具体的な内容が分かる様ように話された言葉や行動など、出来るだけ具体的に書くよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	カンファレンスなどの記録に残している。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	月に1回ケース会を行い、介護計画書の内容の共有をしている。すぐ分かるように各利用者様の介護計画書をファイリングしている。				◎
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	介護計画書に沿って実行できていない事もある。				◎
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの様子を言葉や表情等交えながら具体的に記入している。				○
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気づきノートを作成し記録している。				○
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	基本3～4ヶ月に1回見直しを行っている。状態変化があった場合には、その都度見直しを行っている。				◎
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回のケース会で、利用者一人ひとりの現状について話し合い、確認を行っている。				◎
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院などで、状態に変化が生じた場合は、退院後見直し、新たに計画を作成している。				◎
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。		月に1度、ケース会を設けて問題を挙げて話し合っている。				◎
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	できるだけ様々な意見が出され、いろんな視点から利用者様が見えるよう話し合いに努めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	可能な限り多くの社員が参加できるよう調整している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。		社員全員が会議録を確認し、サインする仕組みを作っている。				◎
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	申し送りノートに記入して、社員は出勤時に確認し、確認後はサインする仕組みを作っている。				◎
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝夕の申し送りで詳しく報告したり、申し送りノートを確認し、サインをして共有している。	○			◎

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	できる限り叶えられるように努めているが、業務に追われる事が多く、なかなか実行できていないのが現状である。	/	/	/	画一的な支援ではなく、個別や少人数で散歩を行ったり、洗濯物干しなどの家事を一緒にしたりと、暮らしの様々な場面で楽しめるように複数の選択肢の中から自由に選べるように機会を増やしている。個別や少人数での関わりの中で、じっくり話をする事で、本音が引き出せることも多く、自発的な発言が聞かれている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	なるべく自己決定ができるように声かけは行っているが、意思疎通や自己決定が難しい方は困難な場合がある。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者様との会話の中で思いや希望を汲み取り、可能な限りの支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	できる限り個々のペースに合わせて生活しているが、食事や入浴の時間は決まっている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	家族から得た情報を活かして昔の話をしたり、冗談を交えながら笑顔を引き出せるような雰囲気作りをしている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通の難しい方もいる為、表情や行動で汲み取れるように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社員は利用者様に対して尊敬すべき目上の方と意識して行動している。	◎	○	◎	◎ 利用者の人権や尊厳について話し合いの機会を持ち、尊敬の念を持って対応するよう心がけている。言葉は丁寧すぎず、ごく自然であり、声の大きさに気をつけながら優しい対応を行っている。利用者の居室ドアの開閉については事前に希望を確認して対応しているため、当日のが気温や天気によって開放されていることも多い。評価調査時の見学では、ノックや声かけ、説明を行って入室する様子が確認できた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	全ての状況に応じた声掛けを行い、敬意を払い対応している。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄、入浴時は必ず扉を開けて行い、プライバシーの配慮をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室はプライバシーの場所であることは理解しているも入る際に声掛けは行っても、ノックは忘れてしまうことがある。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	毎年プライバシー保護の勉強会を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	常に感謝を言葉や態度で伝え、人と人として向き合っている。	/	/	/	◎ 利用者同士の相性や、親しさに応じて配席誘導を行い、仲の良い利用者がソファ席でおしゃべりを楽しむ様子が窺えた。大声をあげてしまう利用者もいるが、さり気なく職員が間に入ってトラブルを未然に回避していた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者様一人一人を理解し、良い関係性が築けるよう支援している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	トラブルを未然に防ぐ為に、利用者様の人間性を把握理解し、支援に努めている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様の話を傾聴し、トラブルを未然に防げるよう配慮している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	利用者様や家族様より馴染みの関係について話を聞き、把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者様と昔の話をし、昔住んでいた土地の話や、よく行っていた場所など把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	関係性が途切れないように、面会に来られる方や、手紙を出される方に対して、支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会等来て下さった方と会話をし、居心地が良い雰囲気作りをしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者様が行きたい場所を聞き、なるべく実現出来るよう取り組んでいる。天気の良い日には、散歩等行っている。	○	△	○	「コスモスが咲いたから見に行こう」など、ユニットごとに少人数で対応し、日常的に散歩に出かけている。車いすの利用者も1日中事業所内で過ごすことがないよう配慮し、散歩や日光浴を行っているが、季節や体調に応じてもっと機会を意識的に増やしていきたいと考えている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出時など、地域の方と交流を行っているが、ボランティア等の声掛けは出来ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	外気浴を行ったり、家族様と一緒に外出し、外食が出来るよう支援している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族様と一緒に外出し、外食が出来るよう支援している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	毎年認知症についての勉強会がある。利用者様の状態に合わせ適切な声掛けが出来るよう、気になることは、申し送りノート等活用し、情報共有し、支援している。	/	/	/	車いすの利用者が職員と目的を確認しながら自走している様子が確認できた。アセスメントにより、できることはなるべく利用者自身にしてもらう姿勢で支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能訓練士により指導して頂き、一人一人に合った支援を提供し、身体機能の維持・向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	状態を見極め、できること・できそうなことは、見守り等行い利用者様にして頂いている。最小限の支援で出来ることをして頂いている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々生活する中で、一人一人のことを良く知り、話を傾聴することで、利用者様を把握できるよう努めている。	/	/	/	水やりや洗濯物干しをすることを役割としている利用者もいる。全体的に利用者は高齢化しており、集団での活動や作品作りは難しくなっていると感じているため、家事作業や利用者のできそうな作業を共にしながら楽しみを見つけるように支援している
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	出来る事を積極的に行ってもらよう、支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	朝市に定期的に石蔵を出している。地域の行事等には、参加出来ていない。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者様の服の好みや色の好みを理解し、希望に添えるよう支援している。				どの利用者も季節に応じて身だしなみを整えており、プライドに配慮した支援に努めている。散歩に出かける利用者が座って靴を履き替えている際に、介助しながらそっと下着や靴下を整えている様子が窺え、さりげない配慮が感じられた。重度の利用者も家族の協力を得ながらこれまで好んできた髪型や服装に整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	利用者様と会話をし、好みに添えるよう支援している。自己決定がしにくい方は、家族様に相談している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人様が昔好んでいた物を家族様に相談するなどして支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節や行事に合わせた服装が出来るよう取り組んでいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	気付いた時に、清潔にしている。食後は、口の周りに食べこぼし等が無いが、気を付けて支援している。		○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	理容師を招き、散髪してもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	本人様の帽子や髪飾り等を使用し、工夫して支援している。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	バランスのとれた献立の大切さを理解し、取り組んでいる。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	野菜の皮むきやお盆拭き、食器洗い等は、積極的にしている。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来る事はして頂いているが、全員が出来るわけではない。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に本人様や家族様に好き嫌いやアレルギーの有無を聞いている。日々の生活の中で好みの物が何かを把握できるよう努めている。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節感を感じて頂けるよう、旬の物を提供している。出来る限り食べたいものが食べれる様に献立を工夫している。			◎			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人に合った食事形態で提供出来ている。						
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入所時に持って来て頂くことで、使い慣れたものを使用している。			◎			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事をすることで、声掛けや見守りもでき、安全で楽しみながら食事が出来ている。			◎			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	カウンターキッチンなので、調理時の音やにおいを感じて、また、会話をすることで、美味しく味わえるよう支援している。		○	◎			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人一人に合った量を提供している。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	少ない時には、好みの物を提供したり、時間を空けることで対応している。また、低栄養の方には、経口栄養剤などで対応している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	年配の社員にアドバイスを受けている。食事に偏りがないように、配慮している。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食中毒の勉強会を毎年行っている。台所にマニュアルを掲示し、常に意識している。						

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの外部研修にて学んでいる。参加した社員がその他の社員に指導することで、理解できている。	/	/	/	アセスメントで全利用者の口腔内の健康状況やケア方法について把握している。毎食後、歯磨きを実施し、できることをやってもらいながら口腔の清潔を支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後の口腔ケアの際に確認している。異常があれば、歯科受診をしている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医からの指導は受けていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、声掛けまたは、介助にて対応している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	毎食後の口腔ケアを丁寧に行うよう努めているが、拒否がある利用者様には、十分に出来ないことがある。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	かかりつけ医を受診したり、歯科医に往診に来てもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修に参加することで、理解するよう努力している。	/	/	/	排泄パターンを把握し、個別に声をかけてトイレ誘導を行い、日中はトイレでの自然排泄を基本に支援している。状態に合った適切な排泄用品の使用を検討し、家族の意見も取り入れながら布パッドを使用してみるといった工夫を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	看護師より指導して頂き、理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	毎回排泄を記録することで、把握できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人一人の状態を把握し、その人に合った支援を行っている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事や水分、運動など改善出来るように、情報の共有を行い取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録より、排泄パターンを把握し、早めに誘導をしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族様と相談し本人様に合ったものが使用出来るように努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人一人に合ったもので使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食事、水分、運動などを通して、排便を促す取り組みをしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	出来るだけ本人の希望に添えるように取り組んでいるが、運出勤務者が入浴介助をしている為、毎回希望を聞いている状態ではない。	◎	/	◎	1階ユニットの浴室にはリフトが設置しており、必要に応じて全ユニットの利用者が使用できる、毎日の入浴も可能であり、利用者の希望や体調を考慮しながら対応している。湯温度や順番なども配慮して、気持ち良く入浴できるように支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人様のペースに合わせて入浴出来るようにしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存機能を活かし、出来る事はして頂いている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	一人一人に合った声掛けをすることで、気持ちよく入浴して頂いている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には、バイタル測定をし、入浴後には、水分補給や臥床など状態をみて支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録や申し送りで全員把握している。	/	/	/	夜眠れるように日中を活動的に過ごし、薬に頼らない支援を心がけている。眠れない利用者には、無理強いすることなくリラックスできるように寄り添っている。薬の使用については主治医に相談し、状態に見合った処方を受けている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中は運動等を多く取り入れて、活動的に過ごして頂き、夜間の睡眠に繋げるよう努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ薬には頼らずに、日中活動的に過ごして頂く事で、夜間の睡眠に繋げている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態を把握し、無理することなく休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者様や家族様からの希望があれば、手紙や電話ができる環境となっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人様が希望する場合は、社員が手助け出来ている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	以前携帯電話を所持していた時は、気軽に電話されていた。現在も希望があれば、電話が出来るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人様が出来ない時には、家族様をお願いしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族様に理解、協力をしてもらっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	現在、お金を所持している利用者様がいなくて、理解出来てない社員もいると思う。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	現在お金を所持している利用者様がいなくて、行っていない。月一回数名ずつ外食に出掛けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	お金を所持している利用者様がいなくて、出来ていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を所持している利用者様がいなくて、家族様と相談出来ていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	所持されている利用者様がいなくて、出来ていない。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	所持されている利用者様がいなくて、ルールを明確に出来ていない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人様、家族様の要望に出来る限り添えられる様に取り組んでいる。	◎	◎	家族からの依頼で、受診同行に応じることが多い。利用者や家族のその時々々のニーズには、柔軟な姿勢をもって応じるように努めている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	近隣の方や来客者に気軽に来て頂けるような雰囲気作りをしている。	◎	◎	◎	門扉や玄関ドアは開放されており、利用者が出迎えてくれ、気軽な雰囲気が感じられた。広い玄関ホールにはテーブルやいすの設置があり、事業所や地域情報を閲覧することができる。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共用の空間には、家庭的な雰囲気が出るように配慮している。リビングには、利用者様の写真や季節に合わせた展示物を掲示している。また居室には、親しみのある写真やクッション、家具等使い慣れた物を持って来て頂いている。	◎	○	◎	共用空間は、ソファ席やテーブル席、量のコーナーと、その時の目的や気分に応じた使い方ができ、家庭的な家具や和調の調度品で居心地の良い空間を演出している。職員紹介やユニットの目標を掲示し、利用者や家族と共有している。自然光をたっぷり取り入れて明るく、毎日の清掃が行き届いた清潔な空間である。季節の花々を飾り、利用者の目線に合わせた位置に行事写真を掲示して、利用者の反応を引き出すことができている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝の掃除を丁寧なすることで、利用者様が不快な思いをしないように気を付けている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じて頂けるように、季節の物や花を制作して掲示し居心地の良い空間にしている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方とテーブルでお話しされたり、ソファでくつろがれる方もおり、その人に合った居場所を提供している。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	扉やカーテンで仕切り、直接見えないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族様との写真など掲示している。タンスなどに関しては、地震時の怪我の観点より、プラスチックにしている。	◎		◎	自宅から持参した馴染みの家具や家族写真、テレビ、仏壇など、利用者にとって大切なものや使い慣れたものを持ち込んで、居心地よく過ごしてもらっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや浴室、居室の入口にはわかりやすく表記している。居室のタンスにも衣類の場所を表記している。				◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	廊下や居室などには、不要な物を置かないよう心掛けている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	雑誌などは置いている方もいる。その他趣味の品など、適宜社員が管理している。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解し、鍵はかけていない。	◎	◎	◎	鍵を使用することの弊害を理解し、日中施錠はしていない。門扉や玄関ドア、各ユニットドアもオープンで、利用者は自由な生活を送っている。防犯上、夜間は施錠するが、出勤前に面会に来る家族もいるため、早朝6時には開錠している。ユニット出入口にはセンサーがあり、外に出たい利用者にそっと付き添って対応している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に家族様に説明、理解してもらっている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日頃より利用者の居場所を把握できるように努めており、鍵をかけていない。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時に、診療情報提供書などで把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	1日3検バイタル測定を行い、介護記録や申し送りに記入し、常に把握できるようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	常に看護師に相談できる体制になっており、週1回医師に往診に来ていただいて相談できる関係を築けている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人様・家族様希望のかかりつけ医に受診していただいている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	病院と連絡を取り、本人様と家族様の希望を取り入れている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果の報告はその都度行っている。家族様の意見を聞き、主治医の助言を踏まえて話し合いの場を設けている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	介護サマリーや口頭で説明し情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療機関と連絡を取り合い、情報交換をしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	看護師が日頃より連絡を取り合っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	変化があればその都度、看護師に伝達し指示をもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間常に看護師に連絡できるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃より看護師と連携を取り、健康管理ができる体制を取っており、早期発見に努め、治療に繋げている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者様個別に薬のファイルがあり、理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬を支援する係を決めており、飲み忘れや誤薬がないように努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態に合わせて主治医と相談し、薬の調整をしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	看護師に経過を伝え、病院と連絡を取っている。				

愛媛県グループホーム多賀の里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化の段階ごとに話し合いの場を設けており、意向に沿えるようにしている。	/	/	/	現状として事業所での看取りの実施はしていない。事業所としてできる支援を利用者や家族に理解が得られるように伝え、家族からは事業所での看取りを希望する声も聞かれている。利用者ごとに緊急対応についてマニュアルを作成し、統一した対応ができるように工夫している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	主治医には家族様の意向を伝えている。入院時には、病院関係者と情報の共有を図っている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	社員の力量を把握し、急変時の対応について指導している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時や状態の変化ごとに話し合いの場を設けて、理解していただいている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族様や医療機関と連携を取り、支援している。施設で出来ないことは、病院にて医療行為を受けている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族様の訴えに共感し、支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	毎年勉強会を開き、知識を得て、感染症対策をしている。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成しており、全社員が同じ対応が出来るようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	インターネット等を通じて、情報を取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市やインターネット等より情報収集を行い、感染症流行前に対策を立てている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	各ユニット入口にHLSプレーとマスクを設置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様と連絡を取り、一緒に支援出来る関係を築けている。				お花見などの季節行事には家族に参加してもらい、利用者の生活に触れてもらっている。来訪する機会が少ない家族も含め、小さな事でもこまめに電話連絡をしている。毎月発行しているユニット便りには、利用者自身が家族に向けてひとこと添える取組みを始めた。職員の異動を含めた運営に関する報告は、家族が充分理解できるように伝え方を工夫して欲しい。家族の来訪時や電話連絡では、気兼ねなく相談してもらえよう、丁寧な対応を心がけている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族様とコミュニケーションを取り、気軽に訪れたり、相談出来る雰囲気作りに努めている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	お茶会や夏祭りに参加して頂いたり、家族様と一緒にドライブ等で外出が出来るよう声掛けをしている。		◎	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	日常生活報告書やユニットだよりを毎月郵送している。		◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族様の要望を聞き、定期的に連絡している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	情報収集し、理解に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事や運営上の変更等は、手紙や口頭で家族様にも説明し同意と協力をお願いしている。		×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	お茶会後に家族会を開催し、意見交換や交流を図っている。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	事故や病気などの考えられるリスクを説明し、必要に応じて話し合いをしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に近況報告や意見交換をしている。遠方の方には、定期的に電話にて様子報告をしている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に文章と合わせ、具体的な例を出しながら納得して頂けるよう説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居については、入所時や、必要がある際に家族様に説明している。転居先の相談と面談を行う等の支援もしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定時には、文章と口頭で具体的にお知らせし、不安や疑問をお聞きし、理解、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議や行事を通じて、理解を図っている。	/	○	/	利用者の高齢化により地域に向く機会は減りつつあるが、地域住民やボランティアが来訪してくれる機会もあり、交流を図っている。地域防災や災害時支援など積極的に関わってもらい、事業所を地域の社会資源として捉えてくれていると感じている一方で、地域住民の高齢化も進んでいることも今後の検討課題となっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	夏祭りの際には、近隣の方にチラシを配り、ご参加頂きまた、日頃の散歩や日光浴の際に、日常的な挨拶をしている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	行事や防災訓練時など、地域の方にお世話になっている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	気軽に立ち寄って頂けるよう、日頃から良い関係性を作れるようにしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	隣近所の方と日常的な挨拶を交わしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	夏祭りや炊き出し訓練、その他の行事の際に支援を受けている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くの神社を散歩等で利用させてもらっており、生活の中で楽しみに繋がっている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	神社の清掃を社員がボランティアで行ったり、公民館に展示物を出している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回、地域の方の参加がある。また、毎回ではないが、家族様や利用者様の参加もある。	○	/	○	運営推進会議は利用者や家族、地域住民の参加を得て開催している。高齢の参加者が増えてきたこともあり、開催時間帯を夜間から日中に変更している。利用者の暮らしぶりや評価結果について報告している。事業所の報告だけでなく、地域防災などの意見交換が積極的に行われ、運営に反映し、状況や結果などの報告を行っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	書類や写真を使用し、取り組みや出来事を説明、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出た意見や提案等に対しては、真摯に受け止め、日頃の取り組みやサービス向上に活かしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	昨年度より、日中の開催となり、多くの方に出席して頂けるよう工夫している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	グループホーム玄関に議事録を置いており、誰でも見えるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	GH全体の理念と、各部署の理念があり、出勤時に目に入る所に掲示している為、一人一人が意識して取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	わかりやすい言葉で理念を立てており、日々の関わりを持つことで伝えられている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社員の能力に合わせた研修が受けられるように計画している。	/	/	/	研修体制が整っており、働きながら学ぶことができる。法人内では複数の事業所を運営しているため、スポーツなどの親睦活動の機会があり、職員の楽しみにもつながっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務経験を通じて、働きながらスキルアップが出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の能力に合わせた勤務形態を作っている。定期的に面談を行い、社員のことを把握している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修や勉強会など他施設と交流することで、良い所を取り入れている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	懇親会やスポーツ交流を通して、ストレスの軽減をしている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	毎月勉強会を行うことで、全社員が理解できている。	/	/	/	虐待防止に関する研修会で定期的に学んでおり、身体拘束委員会の発足を経て、虐待や不適切なケアについて理解や発見時の手順の理解を深めている。現在、検討する課題はないが、職員のストレスが不適切なケアへの引き金になることも理解し、注意し合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝に3ユニット合同で申し送りしている。また夕方は各ユニットにて行っている。月一回ケース検討会を行い、話し合う機会がある。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会等を通して、理解している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に面談を行うことにより、ストレスにならないように状況把握をしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会等で全社員が理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会で学んでいる。利用者様の尊厳・安全を第一に考えたケアを話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入所時に具体的に説明し、理解を得ている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	勉強会や外部研修等に参加することで理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要に応じて説明している。いつでも相談に乗る事が出来るようにしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	利用者様が必要な支援を受けることが出来るように各機関と連携を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成して、ファイルにしている。緊急時に備えて、皆が同じ対応が出来るようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署から救急隊員に来てもらい、定期的に訓練を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットについて記録・検討し再発防止に取り組んでいる。また、安全対策委員会を設置している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者様一人一人の介護ルールを定め、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成している。苦情報告書の書類作成をしている。苦情があった場合は話し合い、対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は、すぐに話し合い改善している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対策を早急に回答し、納得していただきながら、話し合いを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	入所時や面会の際に家族様に苦情相談窓口を説明している。			○	玄関ホールに意見箱を設置し、利用者や家族が無記名で投稿できるようにしている。日常的に利用者には日常の生活の中で意見を伺い、家族には来訪時や電話連絡の際に意見を伺っている。また、職員の提案を受け付ける提案箱も設置しており、運営のアイデアや改善したいことを自由に投稿することができ、調理に関する負担軽減の希望があり、調理済み食材の利用を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時など個別に聞いたり、運営推進会や家族会などで話し合っている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	必要があればその都度、情報提供を行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	意見要望について耳を傾けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個人面談やケース会などで、話し合う機会を持ち、運営についても検討している。また、提案箱を設置している。			◎	

愛媛県グループホーム多賀の里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2回自己評価に取り組んでいる。				運営推進会議では外部評価に関する報告を行っているが、参加できなかった家族には十分に取組みを理解することが難しい状況である。今後はわかりやすい説明や、取組み状況を定期的に報告して意見をもらうことで、モニターとしての機能を活用しながら風通しのよい運営につながることに期待したい。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価について一つ一つ出来る事を職員皆で協力し、実施している。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実現可能な目標に向かって行っている。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族様、運営推進会議メンバーに報告し、話し合っている。	△	○	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告している。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	災害に合わせた対応マニュアルを作成し、周知している。				地域防災には積極的に取組む地域性があり、地域住民は事業所の災害対策にも協力的である。法人内の別事業所で土砂災害があったことをきっかけに、法人本部に災害対策本部を設置し、災害時の対応や備蓄品などの整備を行っている。利用者の居室ドアには利用者の移動方法をイラストで掲示し、外部の支援者にもひと目でわかるよう工夫している。警察や消防署とも連携が取れていて、被災時の連絡支援の協力や訓練への参加が得られている。運営推進会議でも災害に関する話し合いや、炊き出し体験などの具体的な取組みがある。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	定期的に防災訓練を行い、マニュアルを再確認し、利用者様が避難できるよう、全社員が意識付けている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備や避難経路、非常時用品等、定期的に点検を行っている。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域住民の方や、消防署との連携を図っている。		△	◎		○
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域のネットワークづくりに適宜参加して、災害対策に取り組んでいる。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議などで、地域の方や家族様に向けて日々のケアについて情報提供に取り組んでいる。				運営推進会議内でも、地域住民についての相談について話題になることがある。前施設長が地域の役員をしていたこともあり、地域からの介護保険や認知症についての相談は多い。事業所周辺の小学校や中学校から生徒が来訪する機会もあり、高校生ボランティアも受け入れている。また、最近では高校に招かれ、現場の職員が講義をすることもある。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談は受け、出来る範囲でしている。			○		◎
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	夏祭り等の行事の時は開放している。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実習など受け入れている。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	十分な協働は出来ていない。					◎